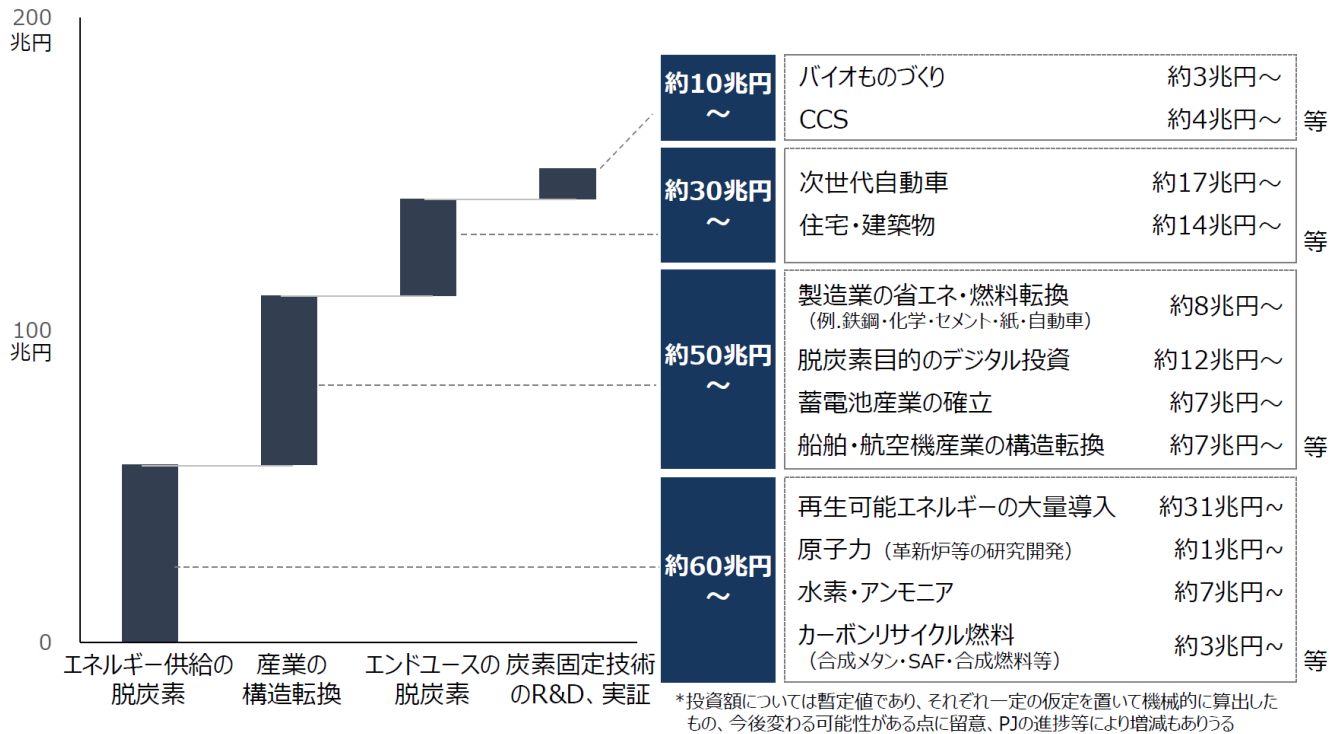


**GX投資は経済成長をもたらすか？**

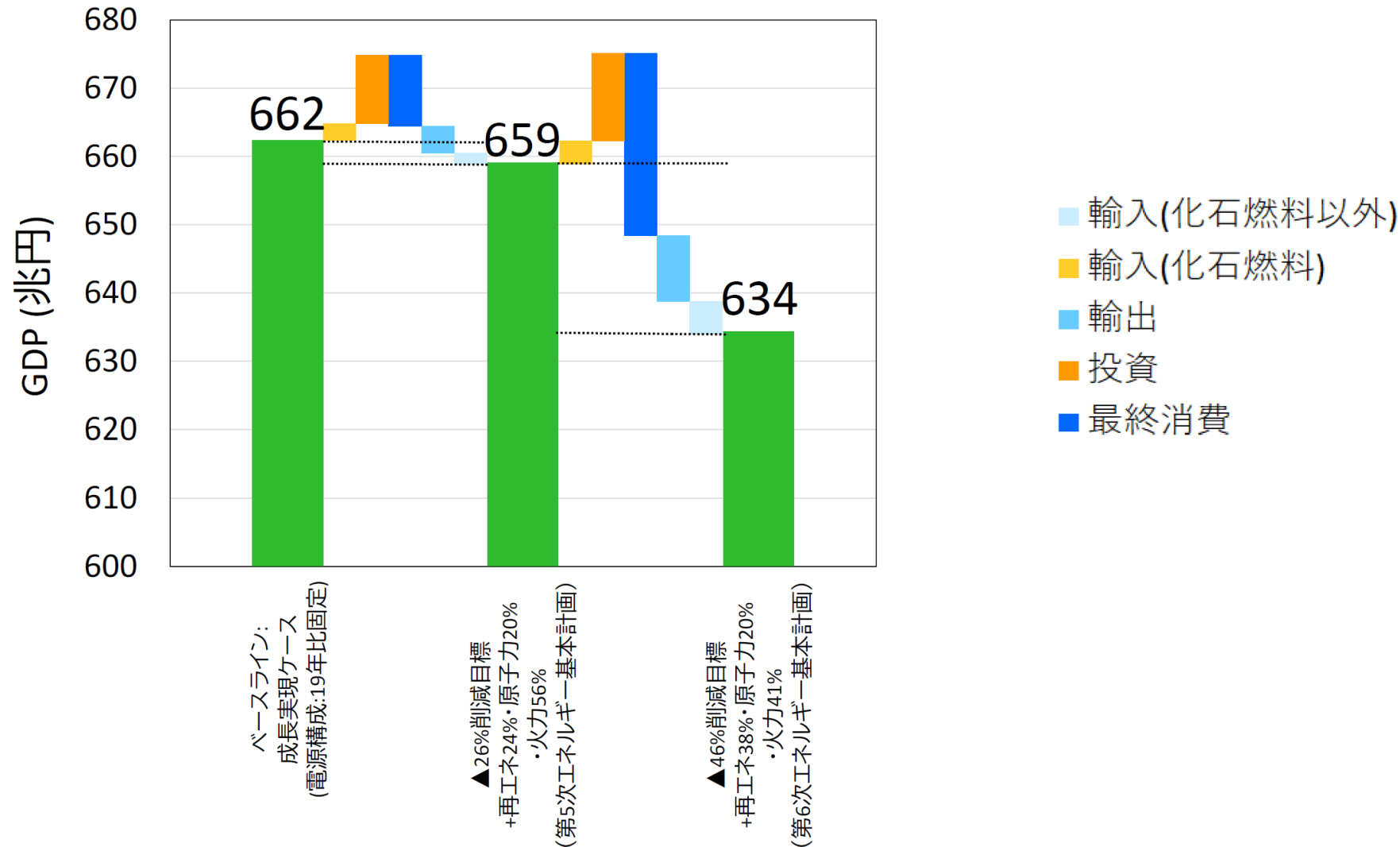
# GX実現に向けた基本方針

## 【参考】 GXを実現する官・民の投資のイメージ



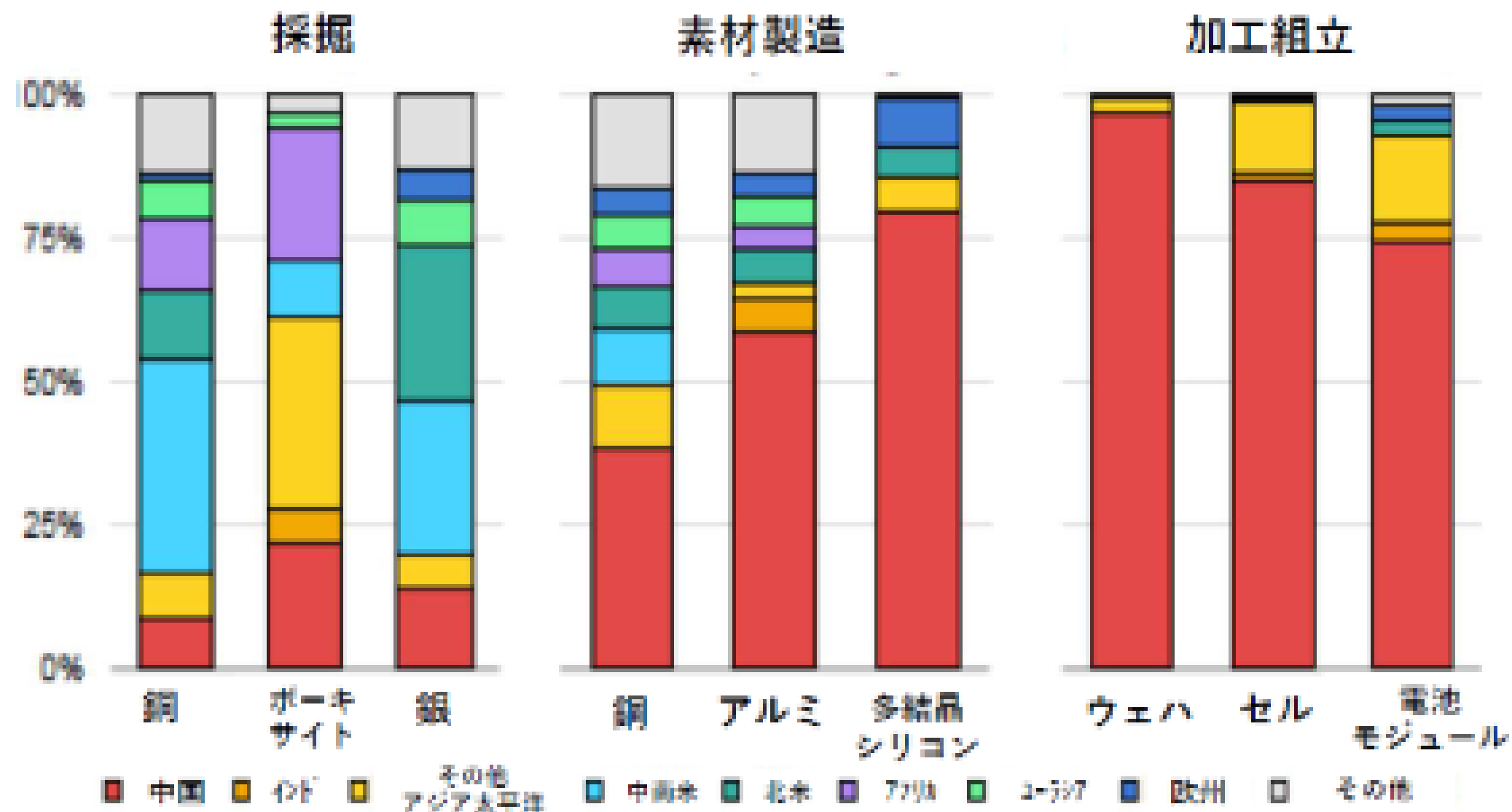
- ・10年で150兆・・・GDPの3%
- ・規制・支援一体型投資促進策
- ・GX経済移行債20兆
- ・カーボンプライシング
- ・GX経済移行推進機構

# (1-2) GDP変化の要因分解



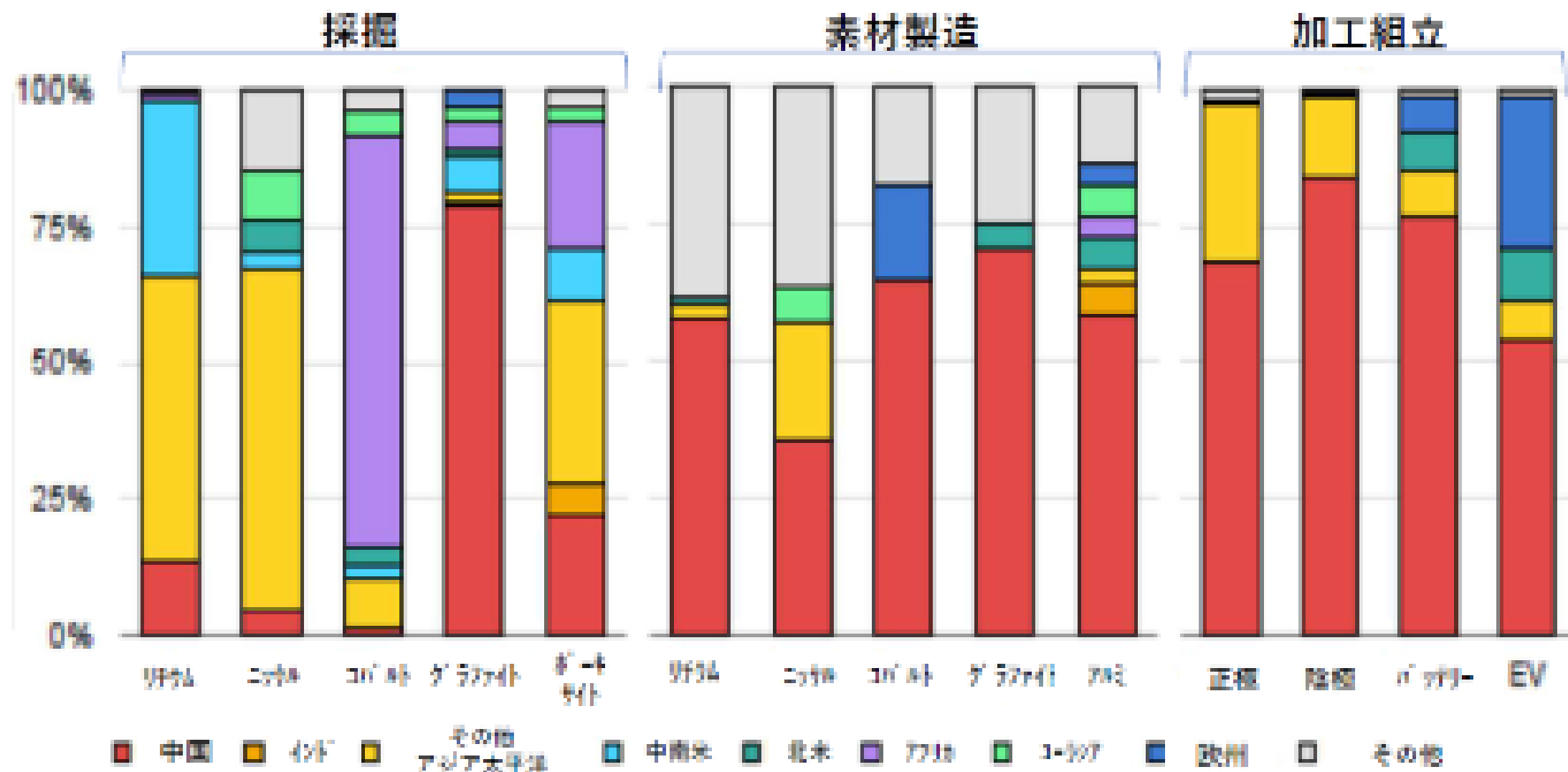
▲46%においては低炭素・省エネの投資は増大するものの、エネルギー価格上昇によって、製造業等の競争条件の悪化による輸出の低下、また、財・サービス価格の上昇に伴う消費の低下によってGDPが低下

# 図1. 太陽光モジュールの部材製造シェア



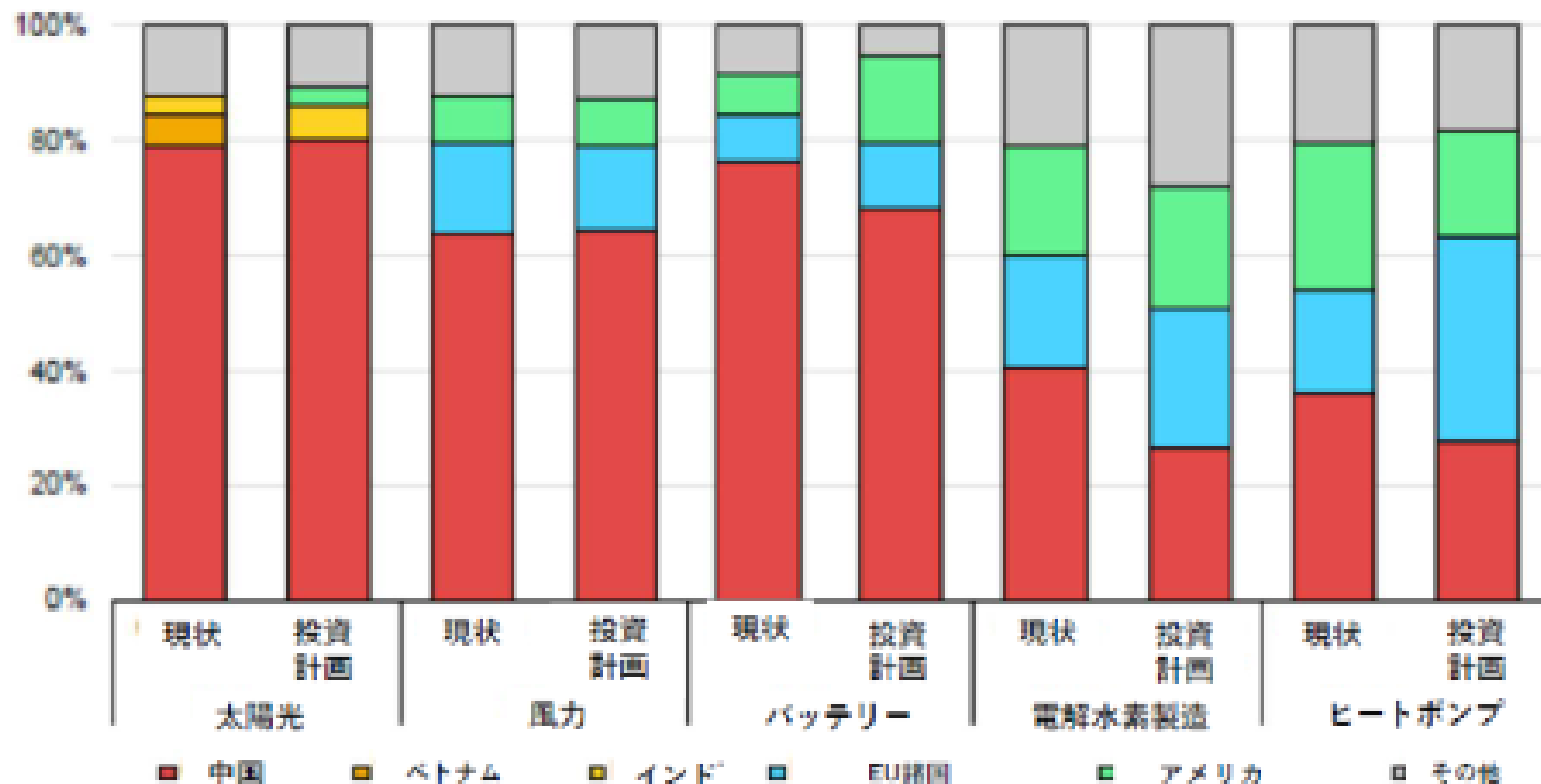
出典：Securing Clean Energy Technology Supply Chains, IEA, July 2022

図2. EV・バッテリーの部材製造シェア



出典: Securing Clean Energy Technology Supply Chains, IEA, July 2022

図3. グリーン技術製造の地域集約度－現状と将来



出典：The State of Clean Energy Technology Manufacturing, IEA, May 2023

# 日本はどうすればよいのか？

- 既に商品競争力で中国に負けているグリーン製品の拙速な普及を図るような政策への資金投入は一旦ブレーキをかけて予算を温存する、その上でまだ中国が量産化していない次世代の製品、例えばペロブスカイト型太陽電池や全個体電池を搭載したEV、PHVなど、日本が技術優位性・先行性を持ち、従来製品より機能的に優れていて消費者にも選択されやすい製品群を選定し、その量産化を国が資金支援して国内生産基盤を確保する。
- またその際には、こうした技術に必須となる素材や資源について、国内で生産すべきものについては並行して支援して供給基盤を整える。加えて鉱物資源など海外に依存せざるを得ない原材料についても、日本資本による権益の確保や現地生産基盤の確立など、バリューチェーン全体をカバーした包括的でしたたかな「産業政策」で、競争力のある供給基盤の確立を目指すべきだろう。
- また当初は高コストにならざるをえないこれらの国産グリーン製品の普及のために、技術やスペックで国内生産品に縛りをかけた、普及促進のための購入補助金<sup>注5)</sup>を付ける、などの「市場創出」対策と合わせた、体系的かつ一貫した「産業・市場政策」を打ち出していくべきなのではないだろうか。